

ひょうしゃく

## 氷積

【意味】〔名〕氷のようにとけること。氷がとけるように消え失せること。

特に氷がとけてなくなるように疑問や障害がすっかりなくなること。氷解。

\*空華集(1359-68頃) 一三・四絶詩集叙「不<sub>レ</sub>遂<sub>二</sub>西游<sub>一</sub>恨者、洒然氷積、不<sub>二</sub>復遣<sub>一</sub>矣」

\*解体新書(1774) 凡例「於<sub>レ</sub>是乎稍稍取<sub>二</sub>其方書<sub>一</sub>。優柔厭飮、相諷相咨、玩<sub>二</sub>愒居諸<sub>一</sub>之際、正得<sub>二</sub>以氷積理順<sub>一</sub>焉」

\*漁村文話(1852) 古文誤字「これにて、従前の疑、渙然として氷積せり」

\*貧乏物語(1916) 〈河上肇〉九・四「私は漸く此疑問を全く氷積し得たるが如くに思ふ」

\*漢書・中山靖王伝「羣居党議、朋友相為、使<sub>二</sub>夫宗室擯卻、骨肉氷積<sub>一</sub>」〈注〉師古曰、氷積言<sub>二</sub>銷散<sub>一</sub>也」

【参照辞書辞典】『日本国語大辞典』 小学館